

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

令和5年度第5回 理事会議事録

日時：令和5年5月15日（月）14:00-15:50

場所：山梨大学大学院整形外科学講座／Zoom

【出席した理事】伊東 学、大鳥 精司、小田 剛紀、金村 徳相、川口 善治、高橋 寛、竹下 克志、
田中 信弘、筑田 博隆、土井田 稔、永島 英樹、中村 雅也、西田 康太郎、
根尾 昌志、橋爪 洋、波呂 浩孝

【出席した監事】小澤 浩司、播広谷 勝三

【議事の経過の要領及びその結果】

理事長・波呂浩孝が議長となり、開会を宣して議事に入った。

1. 審議・決議事項

① 前回の議事録の確認

修正等ある場合は大鳥理事へ一報する。

② 日整会の脊椎脊髄病医について

日本整形外科学会（以下、日整会）事務局へ脊椎脊髄病医について問い合わせた内容と日整会事務局からの回答を説明した。日整会の脊椎脊髄病医に関する全体の収益は約1,100万円、うち約400万円/年が指導医の新規獲得や更新と関連し、日整会の予算へのインパクトはそれほど大きくない。そのうえで、JSSR指導医の取得・更新条件として「日整会脊椎脊髄病医の資格を保有していること」を継続するかを提起した。現時点では「指導医更新者については条件を変更せず、新規指導医資格取得希望者の要件からは外す」という案が出ている。

この案に対して新規取得時の要件から外すことに関しては、異論はなかった。

一方、更新時の要件として継続するか否かに関しては、下記のような多くの意見が出され、議論された。

- I. 要件継続案：指導医更新のためにこれまで脊椎脊髄病医を更新してきた指導医の納得が得られない可能性が高く、更新時の要件としては継続すべき。
- II. 要件不要案：脊椎脊髄病医を失効したために指導医を失効してしまう事例がまれにあり、形式的なものなら更新時要件からも外すべき。

III. 要件変更案：折角専門医ができたのであるから、このチャンスに更新時の条件を「脊椎脊髄病
医または脊椎脊髄外科専門医」とする。脊椎脊髄外科専門医の普及促進にもなるし、制度の変
わり目なので多くの指導医の納得も得られやすい。

上記指導医更新時の条件に関しては、脳神経外科とも歩調を合わせる必要があり、継続審議となっ
た。

また、上記に関連して、多くの資格があり、特に若手にとってわかりにくい現制度をわかりやすく
すること、現在日整会が認定している脊椎内視鏡技術認定を将来はJSSRの認定資格とし、合わせて
制度を明確にしていくこと、で意見の一致を見た。

③. 評議員選考委員会：次回評議員選考委員メンバーについて

波呂理事長が、次回の評議員選考委員のメンバーについて以下を提案した。

北海道地区：伊東 学

東北地区：小澤 浩司

関東地区：中村 雅也

中部地区：川口 善治

近畿地区：根尾 昌志

中四国地区：永島 英樹

九州地区：播広谷 勝三

一同検討の結果、評議員選考委員のメンバーを承認した。

以上のメンバーを約 1 か月程度会告として会員限定ホームページ、ニュースレターへ提示し、評議員一
同から各自の地区の代表となる委員について異論がないか広く意見を徴収する。

評議員選考委員会は、2024 年 1 月 15 日に開催予定である。

④. 専門医制度委員：第17回脊椎脊髄外科専門医試験の試験結果について

4月のJSSR学術集会中に開催された第17回脊椎脊髄外科専門医試験の結果を報告し、承認を求めた。

受験者人数：59名

合格者数：58名

不合格者数：1名

合否結果について承認した。

⑤. 教育研修委員会：Iコースオンラインの終了について

JSSR学術集会時に実施されている「脊椎脊髄病研修コース」のなかの「Iコース」について、新型コロ
ナのためここ数年オンライン開催も行っていたが、新型コロナの状況や予算の件も考慮し、次回第53回
JSSR学術集会からオンラインを終了することを、一同検討の結果承認した。

また、第52回の研修コースは学会場を借りられず、研修コースのみ別にホテルを借りて開催したが予算
を圧迫した。次回同様のケースがあればより安価な会場で開催することも承認した。

⑥. データベース委員会：JSSR-DB 等について

JSSR-DB 2021 年度年次報告について現状を報告するとともに、獨協医科大学の種市洋評議員より利用申請が 2 件あったとして、以下を説明した。

1) 第 96 回日整会学術集会 教育研修講演及びシンポジウムでの発表

データ利用ではなく、JOANR/JSSR-DB のシステムとしての紹介・引用

JOA 症例レジストリー委員会担当理事としての発表

以上については、委員会担当理事及び委員長にて検討し許可した。

2) 第 25 回日本骨粗鬆症学会 シンポジウムでの発表

骨粗鬆症性椎体骨折の手術治療のトレンドと合併症についての引用

以上については、理事会での決議審議事項となる。内容としては会員公開レベルであるが死亡に関するデータは含まれない。一同 2) について検討の結果、種市評議員からの利用申請を承認した。

また、JSSR-DB への登録について 2023 年 3 月 31 日までの症例登録は指導医在籍施設、指導医手術施設及び希望者を登録対象者としていたが、2023 年 4 月 1 日以降の症例登録は、原則すべての JSSR 会員在籍施設を登録対象者とする。倫理審査については JSSR-DB は JOANR を基盤としたデータベースのため JOANR にすでに参加している施設であれば不要である。

本件については、再度会員への案内や告知を進めていくことになった。

⑦. 新技術評価検証委員会：LIF 後発品、仙腸関節固定デバイス適正使用基準について

金村理事が、DePuy Synthes LIF（LIF 後発品）が 2023 年秋市販予定であるが、委員会内で WG を立ち上げ、適正使用基準の作成や添付文書監修、WG 内の限定施設で使用し安全性の確認（100 症例程度）等を行いたいと提案した。LIF を多く行っている施設に所属していて、なるべく他の WG メンバーと重ならない人を選んだ。

WG 委員候補（順不同）

名古屋大学	中島 宏彰 委員
千葉大学	折田 純久 委員
順天堂大学	野尻 英俊 評議員
山梨大学	大場 哲郎 会員
京都市立病院	竹本 充 会員
兵庫医大	圓尾 圭史 評議員
江南厚生病院	都島 幹人 会員

上記メンバーを承認した。

次に、仙腸関節固定デバイス適正使用基準について、現状を報告しつつ論文化及び会員限定ページでの公開を再審議したいと提起した。現時点ではデバイス申請中で添付文書の作成も始まっていない。しかし、適正使用基準には仙腸関節障害の病態や診断についても広く記載されており、WG では会員に広く周知するために公開希望である。また、論文は仙腸関節障害に関するレビューのような内容としたい。議論の結果、適正使用基準という名称を付けてしまうと、すでにデバイスを使用可能かのような誤解を与えるので、タイトルは変更する必要があるとして、再度 WG で検討することとなった。

論文は『SSRR』のみに掲載を考えていたが、審議の結果セカンドパブリケーションとして『JSR』への

投稿も検討することになった。

⑧. メンバーシップ・コンプライアンス委員会：会員審査（4月分）

4月の入退会について全員を承認した。名誉会員 河合伸也先生の逝去については、来年の学術集会で追悼を行うことを確認した。

⑨. JSSR寄付趣意書2023案について

寄付の金額を一口10万円にし、目標金額を明記した寄付趣意書の改訂版を承認した。

⑩. その他

新技術評価検証委員会：WGメンバー交代の件

OLIF51WGのメンバーの異動による、メンバー交代を承認した。

藤林 俊介 委員（京都大学）が竹本 充 会員（京都市立病院）に交代

新技術評価検証委員会：Globus LIF 使用要件確認書の件及びUBE WG 解散の件

一般販売開始予定（施設基準、実施医基準あり）のGlobus LIFについて、OLIFのものに準じた使用要件確認書を承認した。

また、目的を達したUBE WGの解散を承認した。

学術集会プログラム等検討委員会：プログラムガイドライン廃止の件

「日本脊椎脊髄病学会学術集会プログラムガイドライン」が古く、時代に合わなくなっており、最近の学術集会においても参考にされていないことから、委員会において廃止が承認された。委員会決議の通り廃止を承認した。

国際委員会：アジアトラベリングフェロー（ATF）募集年齢上限引き上げの件

ATF 募集再開を今年10月より開始予定であり、新型コロナ流行のためATFが停止していた期間への措置として、年齢制限を従来45歳のところ満48歳まで引き上げることを承認した。

この措置の期間については今回のみとし、以後は年ごとに理事会で審議していく。

指導医制度委員会：指導医申請の必須条件に追加事項の件

今後の指導医申請の必須条件に「脊椎脊髄外科専門医であること」を加えることを承認した。

3. 審議・報告事項

①. 専門医制度委員会報告

脊椎脊髄外科サブスペシャリティ領域の専門研修（カリキュラム）の概略や今後のスケジュールを示した。特に現在の指導医から専門医への移行は、2024年の11月（脊髄障害医学会開催時）で終了となるため、会員に混乱がないよう今後もしっかり告知していく。

これに合わせて、データベース委員会に依頼して、JSSR-DB 症例の執刀医と助手がわかるようにしても

らう。

②. 脊髄モニタリング委員会報告

2022, 2023 年度のモニタリングデータを収集中であることや、JSSR 学術集会時に行われた脊髄モニタリング認定医試験の運営、脊髄モニタリングについての研究進捗、抄録作成・論文化の規定と注意点について委員会内で協議し進めている。

③. 定款等検討委員会報告

全ての規程について、修正が必要と考えられる部分について検討している。担当委員会がある場合は、まずはその委員会で検討してもらっている。

④. 国際委員会報告

KSSS & TWSS のフェロー受け入れ、KSSS との MOU 締結の終了、ATF の新型コロナ流行のため停止していた期間への措置として、年齢制限を引き上げることに委員会内で審議し承認した。

また、NASS International と JSSR との共同シンポジウムについて、NASS でのシンポジウム共同開催の提案が NASS 側からあったが、今年度についてはその期間が日整会の基礎学術集会と重なったこともあり、次年度へ向けての協議を提案した。また、今後 NASS がアジアで開催する学会や JSSR 学術集会中の NASS とのシンポジウム形態について NASS 側と協議中である。コロナ流行以前に行っていた、NASS 総会に次年度 JSSR 学術集会の主催校が出走き、ブースを設けて翌年の JSSR 学術集会を広告していたことや、JSSR のときに同様に NASS がブース展示を行っていたことの再開については今後検討していく。

⑤. データベース委員会報告

JSSR-DB 2021 年度年次報告の公開情報と 2022 年度の進捗状況を示した。
2022 年度は推定年間約 14 万件であり、対前年比約 132% となる予定である。

⑥. 新技術評価検証委員会報告

各ワーキンググループ（椎体形成術 WG、頸椎人工椎間板 WG、ACR・胸椎 XLIF WG、OLIF51WG、仙腸関節固定 WG、UBE WG、セメント注入型スクリュー WG）での活動を報告した。UBE WG は目的を達し解散となったので、今後内視鏡手術全体を包括した WG の立上げを検討中。

⑦. 指導医制度委員会報告

指導医申請要項の見直しについて検討したと報告した。主な検討点は専門医機構認定の脊椎脊髄外科専門医との差別化であり、指導医要項中の手術症例や業績を再検討する必要があるとして、担当理事と委員長の間で草案を作成し、2026 年からの運用を目指す。

⑧. 広報委員会報告

ホームページの更新について報告した。また、ニュースレターバナー広告の表示形式及び趣意書についてと、ホームページ改訂、Search engine optimization (SEO) を検討した。

⑨. その他の委員会報告

メンバーシップ・コンプライアンス委員会

刑事罰を受けたため2023年4月の定時評議員会の決議をもって除名となった会員について、除名の通知を内容証明郵便で4月20日に送付した。

賛助会員特典について見直し案を作成中で、作成後は定款等検討委員会へ査収を依頼予定である。

ヒストリアン委員会

記念誌の原稿依頼を行っているが、平林冽名誉会員から、20年ほど前にJSSRへ労災関係についての要望書を送っているがどのようになったかとの質問があった。過去の理事会議事録から、要望書に対応するための委員会が作られメンバーが決定したことまでは確認できたが、その後の活動や結論がどうなったのかについては不明であった。中村副理事長が議事録に書かれていた委員へ問い合わせしたところ、会議を数回行ったことはわかったが、結論は出ていないようだった。

現理事会でどのように本件を扱うかを議論し、その結果、政治絡みの問題も含み、JSSRだけでは対応できないということで、中村副理事長が厚労省へ確認することになった。

⑩. その他

・ 次回の理事会開催日：6月19日（月）14：00-16：00 Zoomにて

以上

令和5年5月15日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 波呂浩孝

監事 小澤浩司

監事 播広谷勝三